

P25a T タウリ型星周囲に検出した伴星候補天体の近赤外分光観測

伊藤 洋一 (神戸大自然)、林 正彦、田村 元秀 (国立天文台)、大朝 由美子 (神戸大自然)、深川 美里 (東京大理)、真山 聡 (早稲田大理工)、大プロジェクトチーム

我々は、原始惑星や原始惑星系円盤を検出するために、おうし座分子雲に付随する前主系列星のコロナグラフ観測を、すばる望遠鏡の観測所大プロジェクトとして進めている。原始惑星系円盤については、過去の年会で報告をしてきたが (伊藤:GG Tau,DO Tau など)、本講演では T タウリ型星の周囲に検出した点光源に焦点をあてる。

中心星からの離角を $5''$ 以内に限っても、10 個程度の点源を新たに検出した。これらの明るさは H バンドで 15 等から 20 等程度で、主星に付随しているならば、質量が非常に小さい可能性がある。

そこで、スペクトル型を求めるために、我々は 2 つの天体に対し近赤外分光観測を行なった。観測は 2003 年 11 月に、すばる望遠鏡と CISCO を用いて行ない、一つの天体は晩期型のスペクトルを示すことがわかった。講演では、スペクトルから考えられる、観測天体の特性について述べる。